

日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答の対照言語的研究

ウィラシンハ・ディリニ・ハサンティカ

1. 研究背景と目的

疑問文に対する応答の仕方は、他人との円滑なコミュニケーションを行う上で重要な要素である。本稿では、日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」と「否定疑問文」に対する応答の使い方を取り上げ、それらの共通点と相違点を探っていく。

日本語の肯定疑問文に対する答えの「はい」「いいえ」は、シンハラ語の「ou (はい)」「*nae:nehe* (いいえ)」に対応しているが、否定疑問文に対する日本語の「はい」「いいえ」は、シンハラ語の「ou (はい)」「*nae:nehe* (いいえ)」に対応していない。よって、筆者自身を含めシンハラ語を母語とする日本語学習者にとって、「否定疑問文」に答える際の「はい」と「いいえ」の使い分けが最初は困難である。

本稿では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者を対象としたアンケート調査によって両言語の「肯定疑問文」と「否定疑問文」に対する応答の比較分析を行ない、シンハラ語母語話者による日本語の疑問文に対する応答がどれ程日本語母語話者に近いかを検討する。

2. 先行研究

2.1 日本語の疑問文に対する先行研究

ここでは、日本語の疑問文に対する応答の先行研究を概説する。

久野 (1973) は、否定疑問文に対する答えとして用いられる「ハイ」と「イエエ」の使用について次の通り述べている。例えば、

(1)A: 昨日、学校ニ行キマセンデシタカ。

B: ハイ、行キマセンデシタ。 “No, I didnt.”

イエエ、行キマシタ。 “Yes, I did.”

(2)A: 昨日、学校ニ行ッタンジャアリマセンカ。

B: ハイ、行キマシタ。 “Yes, I did.”

イエエ、行キマセンデシタ。 “No, I didnt.”

以上の例文について久野 (1973) は次のように説明している。

(1A) も (2A) も共に否定疑問文であるが、(1B) では、「ハイ」「イエエ」が「No」「Yes」に対応しているのに反して、(2B) では「ハイ」「イエエ」が「Yes」「No」に対応している。重要なのは、質問が講文法上否定形になっているか否かではなくて、質問者が肯定形の答えを予測しているか否かである。(1A) は、中立的で無色なので、質問者は、被質問者が前日学校に行ったか行かなかったか、について全く五分五分の予期しかしていない。このような場合には、日本語の「ハイ」は英語の *no* に、

「イエエ」はyesに対応していると述べている。また、(2A)は、講文法上は否定疑問文であるが、意味上は否定疑問文ではない。このような場合には、被質問者、「貴方の予想は正しい」「貴方の予想は正しくない」の意味で「ハイ」「イエエ」を使うのであると述べている。

久野(1973)は、「思う」の否定形で終わる疑問文は、肯定の答えを予期した質問で、「ネ」で終わる否定疑問文は、否定の答えを予想した質問であると述べている。例えば、

(3) A: コレ、面白イト思イマセンカ。

B: ウン。(面白いと思います)

イヤ。(面白いと思いません)

(4) A: 勉強シテ来マセンデシタネ。

B: ハイ。(して来ませんでした)

イエエ。(して来ましたよ)

久野(1973)は、(4B)の「ハイ」は、「あなたの予想(否定の答え)のとおりです」、「イエエ」は「あなたの予想は間違いです」の意味であると指摘している。

2.2 シンハラ語の疑問文に対する先行研究

ここでは、シンハラ語の疑問文に対する応答の先行研究を概説する。

Dissanayake(1992)は、肯定応答の「ou(はい)」は、英語の「Yes」の意味で、否定応答の「*nae:nehe*(いいえ)」の反意語であると述べている。「肯定疑問文」に対する応答の仕方は次の通り示している。例えば、

(5) Q: *oya: ingirisi dannavacada?*

あなたは英語が分かりますか。

A: 肯定: *ou, man ingirisi dannavaca* (ou+肯定)

はい、私は英語が分かります。

否定: *nae:, man ingirisi danne nae:* (nae:+否定)

いいえ、私は英語が分かりません。

Karunatillake(1990)は、否定疑問に対する答えは、文末は肯定であっても否定であってもシンハラ語では、「*nae:nehe*(いいえ)」の否定応答詞で始まると述べている。例えば、

(6) Q: *ee kade pol nedda?*

その店にはココナツはありませんか/はないですか?

A: *nae:, ee kade pol nae:*

いいえ、あの店にはココナツはありません。

nae:, ee kade pol tiyanawa:

いいえ、あの店にはココナツがあります。

3. 調査概要

日本語母語話者(10人)と日本語能力試験3級レベルのシンハラ語母語話者の日本語学習者(10人)を対象とした、同一内容の日本語とシンハラ語のアンケート調査によって、データの収集を行った。シンハラ語母語話者の日本語学習者には、日本語とシンハラ語の二つのアンケートを記入してもらった。

アンケートの日本語の質問は次の通りである。

以下の文の答えとして最も適当なものを1～4の中から選び、○をつけてください。

1. 「肯定疑問文」

①昨日、学校に行きましたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

2. 「否定疑問文」

②昨日、学校に行きませんでしたか。

(A) 行った場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

(B) 行かなかった場合：1. はい、行きました。

2. はい、行きませんでした。

3. いいえ、行きました。

4. いいえ、行きませんでした。

アンケートの「1. 肯定疑問文」と「2. 否定疑問文」の調査結果は、次ように集計した。

1. はい、行きました。(はい+肯定)は(Y+P)で表す。
 2. はい、行きませんでした。(はい+否定)は(Y+N)で表す。
 3. いいえ、行きました。(いいえ+肯定)は(N+P)で表す。
 4. いいえ、行きませんでした。(いいえ+否定)は(N+N)で表す。
- (Y=Yes、N=No、P=Positive、N=Negative)

4. 結果と考察

4.1 「肯定疑問文」の場合

以下の図1は、「肯定疑問文」に対する日本語母語話者とシンハラ語母語話者のアンケートの結果を示したものである。

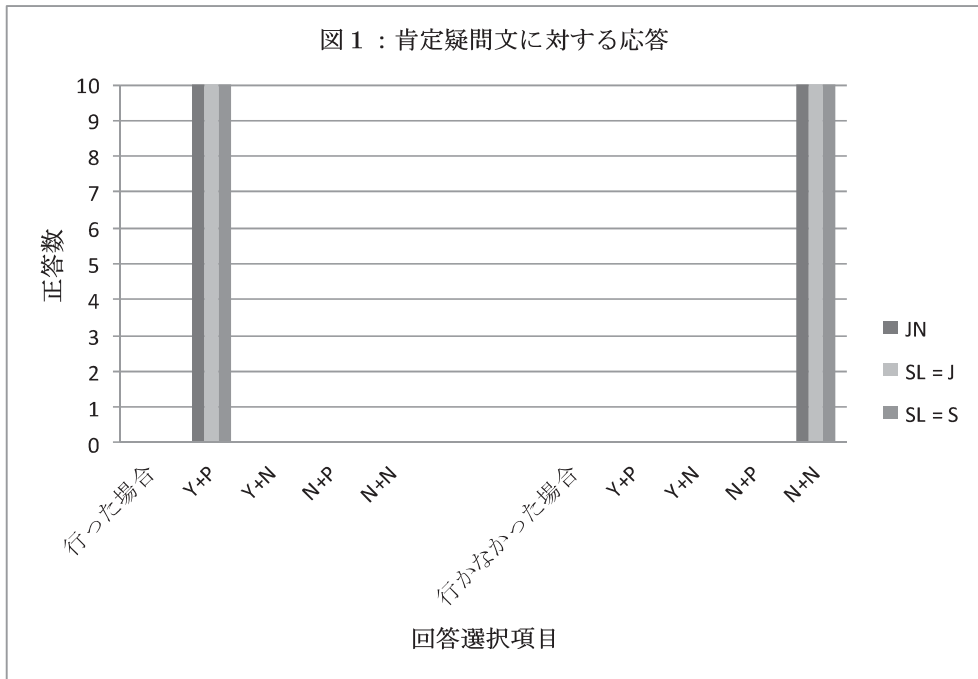


図1：JN=日本語母語話者の回答

SL=J シンハラ語話者日本語学習者の日本語の肯定疑問文に対する回答

SL=S シンハラ語母語話者日本語学習者のシンハラ語の肯定疑問文に対する回答

図1を見れば分かるように、「肯定疑問文」に対する応答では、日本語母語話者とシンハラ語母語話者の日本語学習者の日本語とシンハラ語の回答は同一である。日本語の肯定疑問文の「行った場合」は、日本人と学習者の10人とも（はい+肯定/Y+P）を選択している。「行かなかった場合」は、日本人と学習者の10人とも（いいえ+否定/N+N）を選択している。シンハラ語の肯定疑問文の「行った場合」は、学習者の10人とも（はい+肯定/Y+P）を選択し、「行かなかった場合」は学習者の10人とも（いいえ+否定/N+N）を選択している。

従って、日本語とシンハラ語では同様に「昨日、学校に行きましたか。」という肯定疑問文に対して「行った場合」は「はい、行きました（はい+肯定）」で、「行かなかった場合」は「いいえ、行きませんでした（いいえ+否定）」で答えている。また、シンハラ語母語話者の日本語学習者の10人とも母語の使用と同様な肯定疑問文の答えを正しく選択している。

4.2 「否定疑問文」の場合

以下の図2は、「否定疑問文」に対する日本語母語話者とシンハラ語母語話者のアンケートの結果を示したものである。

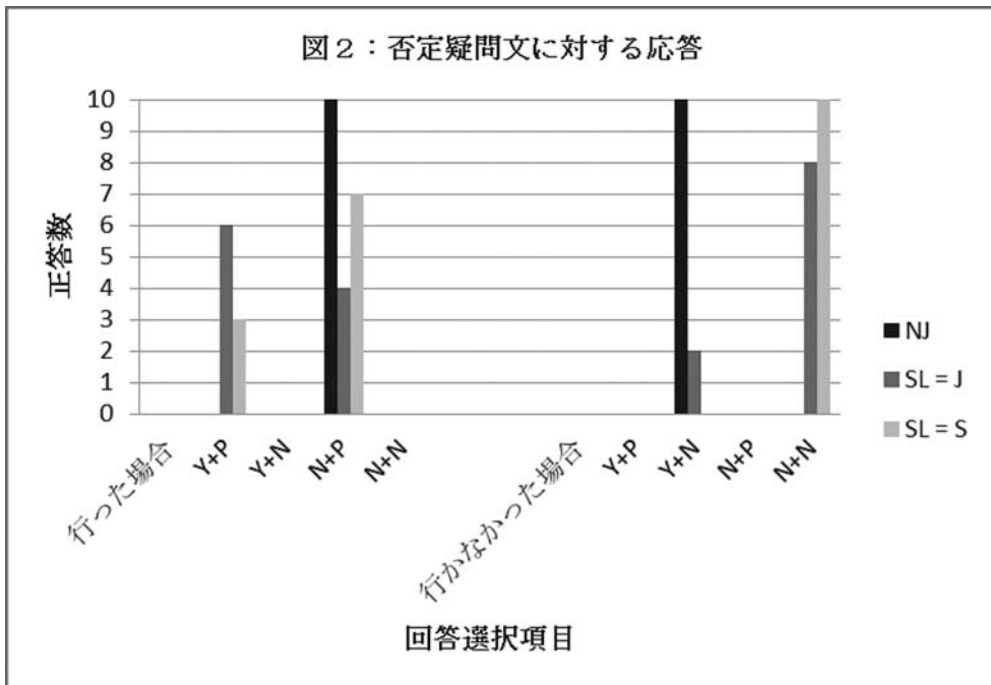


図2：JN=日本語母語話者の回答

SL=J シンハラ語母語話者日本語学習者の日本語の否定疑問文に対する回答

SL=S シンハラ語母語話者日本語学習者のシンハラ語の肯定疑問文に対する回答

図2を見れば分かるように、「否定疑問文」に対する応答では、「行った場合」は日本語話者では、10人とも「いいえ+肯定(N+P)」を選択し、「行かなかった場合」は、10人とも「はい+否定(Y+N)」を選択している。日本語の否定疑問文の「行った場合」は、シンハラ語母語話者の学習者の10人のうち6人は(はい+肯定/Y+P)を選択している。残りの4人は「いいえ+肯定(N+P)」を選択している。日本語の否定疑問文の「行かなかった場合」は、学習者の10人のうち8人は(いいえ+否定/N+N)を選択し、2人は「はい+否定(Y+N)」を選択している。

シンハラ語の否定疑問文の「行った場合」は、学習者の7人は(いいえ+否定/N+N)を選択し、3人は(はい+肯定/Y+P)を選択している。スリランカの第二言語として使われている英語の影響を受けて10人のうち3人は(はい+肯定/Y+P)を選択したと思われる。シンハラ語の否定疑問文の「行かなかった場合」は学習者の10人とも(いいえ+否定/N+N)を選択している。

日本語では、「昨日、学校に行きませんでしたか」という否定疑問文に対して「行った場合」は「いいえ、行きました(いいえ+肯定)」で、「行かなかった場合」は「はい、行きませんでした(はい+否定)」である。シンハラ語では、「行った場合」は日本語と同様に「いいえ、行きました(いいえ+肯定)」で、「行かなかった場合」は英語と同様に「いいえ、行きませんでした(いいえ+否定)」である。

「否定疑問文の場合」日本語では、相手が否定の答えを期待しているか肯定の答えを期待しているかによって答えている。シンハラ語では、文頭の応答詞の「はい」「いいえ」よりも、文末の行ったか行かなかったかという事実に重点をおいて答えている。

シンハラ語話者の日本語学習の否定疑問に対する回答を見ると、シンハラ語では、「行った場合」日本語同様に「いいえ、行きました(いいえ+肯定)」であるのに、多くの学習者は「はい、行きました(はい+肯定)」を選択している。シンハラ語では、疑問文は肯定であっても否定であっても「はい」とか「いいえ」を使わないで、文末の事実に重点をおいて答えるのが一般的である。それで、学習者も「行った場合」は文末の肯定に注目して肯定疑問文の回答と同様な(はい+肯定)を選択したと考えられる。日本語の否定疑問文の「行かなかった場合」も文末に注目していることと母語のシンハラ語と第二言語の英語は「いいえ、行きませんでした(いいえ+否定)」であるため、学習者の10人のうち8人とも(いいえ+否定/N+N)を選択したと思われる。

スリランカでは、小学校の1年から第二言語として英語を学び、日本語を教えるスリランカ人の教師もシンハラ語か英語の訳を使いながら日本語を教えているため、学習者にとって日本語の否定疑問文の応答の仕方が困難になると考えられる。

5. まとめ

日本語母語話者とシンハラ語母語話者の日本語学習を対象としたアンケートの結果分析によって、日本語とシンハラ語の疑問文に対する応答の共通点と相違点が分かった。日本語とシンハラ語の「肯定疑問文」に対する応答の答え方は同一であるのに「否定疑問文」に対する応答の答え方が異なる。そのために、シンハラ語母語話者の日本語学習にとっては、母語の影響で否定疑問文に対する応答の誤用が起こる可能性が高いと考えられる。このような誤用が起こる要因を把握し、否定疑問文に対する応答の練習に重点を置き、様々な指導法の工夫により、効率的に習得させることが、シンハラ語母語話者を教える日本語教師に求められる。

参考文献

- 楠本徹也(1994)「否定疑問文とその応答に関する覚え書」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』20,pp1-14
- 久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 佐々木英樹(1990)「日本語の否定疑問文に対する応答文」『駒沢女子短期大学研究紀要』23,pp93-101
- 寺門伸,佐藤利哉(2008)「否定疑問文に対する日本語と独語・英語の考え方の相違」『CLARITAS』21 愛知教育大学英語英文学会,pp80-98
- Dissanayake,J.B.(1992).*SAYIT IN SINHALA*, Lake House Printers & Publishers Ltd
- Karunatilake,W.S.(1990).*INTRODUCTION TO SPOKEN SINHALA*, Gunasena Publishers

(Wirasingha Dilini Hasanthika・首都大学東京大学院博士後期課程)